

技術職員に期待すること

高等教育研究開発センター長 山本 眞一



今日、大学改革の進行の中、教育研究を巡る環境は大きく変化を遂げてまいりました。その変化はさまざまですが、中でも教育研究の高度化や学生・社会へのサービス充実への期待の高まりには注目すべきものがあります。それは単に競争的環境の中で、大学がより良いサービスをすることによって、学生を確保したり研究資金を獲得したりするだけの話ではありません。

ご存じのように、21世紀知識社会の到来は、大学がもつ知の創造、伝達、貢献の三つの側面をより際立たせつつあるからです。それら三つの側面は、研究、教育、社会サービスと言い換えてもよろしいでしょう。それらの機能を充実することによって、大学はこれまで以上に社会との関係を強めながら、その役割を十二分に果たすことが求められています。

それにはどのようにすればよろしいでしょうか。その方法にはいろいろあることと思いますが、ひとつにはより優れた教育や研究あるいは社会サービスを行うことによって学生や企業、地域の人々の信頼を得ることです。そのためには、教職員が一体となってこれに当たることが大切です。教員はこれまで以上に教育研究に力を注ぎ、職員はこれを上手に支えるとともに、時には教員に有益な情報を提供し彼らの仕事の動機を刺激し続けなければなりません。また役員は教育研究活動が円滑に運ぶよう、大学の特性を生かしつつ経営に格別の配慮をしなければなりません。

要するに、これからの大学運営には教職員そして役員が「目標を共有」しつつ「協働」して動くことが大切なのです。職員の話に戻しますと、職員はもはや、かつてのように教員の言うがままに動くだけでは務まりません。教職協働の精神の下に、教員と一体となって仕事をする必要があるのです。このことは、職員の心構えとして大切であるばかりでなく、教員にとっても心がけなければならない仕事上の重要な指針であると、私は考えております。

技術職員は、その中で、教員の教育研究活動にきわめて近い関係の中で仕事をする職員です。上記のことは、したがって、とくに技術職員にとっては大事なことではないでしょうか。職員自身の努力とともに、関係者のよりよい理解を求めたいと私は考えております。これからも大学の三つの機能の充実のために貢献されるよう、心から願っております。